

## 2023年度第2回京都競馬特別レース名解説

### <第1日>

#### ○ 宝ヶ池特別

宝ヶ池（たからがいけ）は、京都市左京区にある池。池の周辺は宝が池公園として整備されている。園内には野鳥の森や菖蒲園などがあり、四季折々の美しい自然を楽しむことができる。

#### ○ 長岡京ステークス

長岡京（ながおかきょう）は、京都府南西に位置する市。真言宗の乙訓寺、菅原道真を祀る長岡天満宮、西山浄土宗総本山の光明寺がある。名は、784年に桓武天皇が造営した長岡京に由来する。

#### ○ 藤森ステークス

藤森（ふじのもり）は、京都市伏見区にある神社。本殿は、室町時代の一間社流造りで国の重要文化財に指定されている。5月上旬に催される藤森祭では、勇ましい武者行列が町内を巡り、表参道では駈馬（かけうま）神事が行われる。

### <第2日>

#### ○ 清滝特別

清滝（きよたき）は、京都市右京区の地名。保津川支流の清滝川が流れ、夏は京都で数少ない納涼避暑地となる。国の天然記念物であるゲンジボタルの生息地としても知られている。

#### ○ トルマリンステークス

トルマリン（Tourmaline）は、様々な色彩を持つ鉱物グループの総称。名は、スリランカのシンハラ語で「トルマリ」と呼ばれていた宝石に由来する。10月の誕生石として知られ、周囲に電気を帯びる性質を持つことから電気石とも呼ばれる。

#### ○ 夕刊フジ杯オパールステークス（L）

オパール（Opal）は、真珠のような光沢をもつ半透明の鉱物で10月の誕生石。

夕刊フジは、産業経済新聞社より発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

### <第3日>

#### ○ りんどう賞

りんどうは、リンドウ科の多年草。日本全土に分布し、秋に青紫色の鐘状の花を数個開花させる。根は苦みが強く、竜胆（りゅうたん）の名で健胃薬として用いられる。花言葉は「正義」「誠実」。

#### ○ 大山崎ステーキス

大山崎（おおやまざき）は、京都盆地の南西端にある京都府乙訓郡の町。淀川水系の桂川・宇治川・木津川が合流する地域にあり、名神高速道路や東海道新幹線が通っていることから、治水上、交通上重要な役割を担っている。

#### ○ 農林水産省賞典京都大賞典（GⅡ）

本競走は、1966年に『ハリウッドターフクラブ賞』の名称で創設された重賞競走。創設時は3,200mだったが、翌年2,400mに短縮され、1974年に現在の競走名に改称された。なお、第1着馬には同年の『天皇賞（秋）』への優先出走権が与えられる。

### <第4日>

#### ○ 紫菊賞

紫菊（しぎく）は、紫色の花をつける菊の総称。菊は、食用としても古くから親しまれ、お浸し・酢の物・天ぷら・吸い物など様々な料理に用いられる。中でも赤紫色系統の菊は、栄養価の高さから延命薬とも呼ばれている。

#### ○ 北野特別

北野（きたの）は、京都市上京区の地名。学問の神様として信仰を集める菅原道真を祀る北野天満宮があり、受験シーズンには多くの合格祈願者が訪れる。毎月25日に縁日が開かれ、1月の初天神、12月の終い天神は特に多くの参拝者で賑わう。また、梅の名所としても知られ、菅原道真の命日である2月25日には梅花祭が開かれる。

#### ○ 太秦ステーキス

太秦（うずまさ）は、京都市右京区の地名。国宝第一号である『弥勒菩薩半跏思惟像』が安置されている真言宗御室派の広隆寺は「太秦のお太子さん」として親しまれている。

## <第5日>

### ○ もみじステークス

もみじは、晩秋に木の葉の色が変化する現象。また、カエデ科の数種を指す総称。日本列島には秋に紅葉する植物が非常に多く自生しており、その数は 100 種類以上と言われている。

### ○ 大原ステークス

大原（おおはら）は、京都市左京区の地名。比叡山の北西麓に位置し、寂光院・来迎院・三千院などの古刹のほか、後鳥羽天皇の陵や惟喬（これたか）親王の墓がある。

### ○ 秋華賞（G I）

本競走は、1996年に創設された3歳牝馬限定の重賞競走。1995年まで『桜花賞』『優駿牝馬（オークス）』に続く牝馬三冠最後の競走は『エリザベス女王杯』であったが、同競走の出走馬資格が3歳以上牝馬となったことに伴い、新たに三冠を締めくくる競走として本競走が設けられた。

秋華（しゅうか）は、中国の詩人である杜甫や張衡が文字通り「あきのはな」として詩中で用いた言葉。「秋」は大きな実りを表し、「華」には名誉・盛り・容姿が美しいという意味が込められている。

### ○ 花背ステークス

花背（はなせ）は、京都市左京区の北部にある地名。鞍馬より花背峠を越えたところにある杉木立に囲まれた静かな地。毎年8月15日に開催される「花背松上げ」は、愛宕神社の献花行事であり、約千本もの松明を焚くことから、火の祭典としても名高い。

## <第6日>

### ○ 北國新聞杯

北國新聞は、北國新聞社より発行されている日刊紙。同社は、石川県金沢市に本社を置く。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

### ○ 鳴滝特別

鳴滝（なるたき）は、京都市右京区の地名。中央を流れる御室川を鳴滝川とも言う。名は、この地にある小さな滝の音に由来する。また、江戸時代の陶芸家、尾形乾山が窯を開いた地でもある。

## ○ オータムリーフステーキス

オータムリーフ (Autumn Leaf) は、紅葉を意味する英語。

京都には紅葉の名所が多く、京阪電鉄沿線には「通天紅葉」で有名な東福寺や宇治の三室戸寺、長岡京市の粟生光明寺などがある。

## <第7日>

## ○ なでしこ賞

なでしこは、ナデシコ科ナデシコ属の多年草の総称。ナデシコ属の植物は世界各国に分布しており、日本原産の種も存在する。夏から秋にかけて桃色の花を咲かせる。秋の七草のひとつで、ヤマトナデシコ、カワラナデシコなどの別名がある。花言葉は「純愛」「大胆」。

## ○ 壬生特別

壬生 (みぶ) は、京都市中京区の地名。かつては朱雀大路と並行して、平安京を南北に貫く壬生大路が大内裏の美福門に通じていたが、低湿地であったため農業が発達し、農村に転じていった。また、幕末には新選組が屯所を置いたことでも知られる。壬生寺では毎年節分・春・秋に、国の重要無形民俗文化財である壬生大念佛狂言が一般公開される。

## ○ 三年坂ステーキス

三年坂 (さんねんざか) は、京都市東山区にある清水寺に通じる参道。別名「産寧坂 (さんねいざか)」とも言う。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、古風な造りの土産物店が並ぶ。

## ○ 菊花賞 (G I)

本競走は、イギリスの『セントレジャー』に範をとり、1938年に『京都農林省賞典四歳呼馬競走』として創設された重賞競走。1948年より現在の名称となった。『皐月賞』、『東京優駿 (日本ダービー)』に続く3歳クラシック三冠の最終関門。本競走は、「最も強い馬が勝つ」と言われており、3,000mの距離を乗り切るスピードとスタミナを兼ね備えた馬に栄冠が輝く。

菊花 (きくか) は、菊の花の意。菊は、キク科キク属の多年草で、世界中に1万種以上あると言われている。色や形は種類によって多岐にわたり、観賞用だけでなく食用としても用いられる。花言葉は「高貴」「高尚」。

## ○ 桂川ステーキス

桂川（かつらがわ）は、京都市西部を流れる川。丹波山地の東端を水源とし、亀岡盆地・保津峡・京都盆地を経て、大山崎付近で宇治川・木津川と合流し、淀川となって大阪湾に注ぐ。周辺には、松尾大社や桂離宮など名所旧跡も多い。

## <第8日>

### ○ 萩ステーキス（L）

萩（はぎ）は、マメ科ハギ属の落葉低木の総称。葉は3枚の小葉からなる複葉で楕円形。秋の七草のひとつで、紅紫色の蝶形花を対生状につける。花言葉は「想い」「思案」。

### ○ 御陵ステーキス

御陵（みささぎ）は、京都市山科区の地名。本来は、天皇・皇后の墓の意。同地には、天智天皇の陵がある。天智天皇は在位年数こそ4年と短いですが、大化の改新によって蘇我入鹿を倒して実質的な政権の座につき、公地公民制の導入や律令体制の形成に大きな業績を残した。

### ○ MBS賞スワンスステーキス（GⅡ）

本競走は、1958年に創設された重賞競走。創設当初は春季に1,800mのハンデキャップ戦として実施されていたが、1961年より別定重量戦に変更され、さらに幾度かの変更を経た後、1984年から秋季の1,400mで実施されている。なお、第1着馬には同年の『マイルチャンピオンシップ』への優先出走権が与えられる。

MBSは、大阪市に本社を置く放送局。1951年開局でJRN、NRN系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

## <第9日>

### ○ 堀川特別

堀川（ほりかわ）は、京都市中心部を流れる川。794年の平安遷都の際、自然の河川に手を加えて流路を定めた。かつては農業用水や友禅染の工程に利用されていたが、現在は大部分が地下を通る水路になり、地表にはほとんど水が流れていない。堀川通り沿いには、二条城や西本願寺などがある。

### ○ 古都ステークス

古都（こと）は、古い都・旧都という意味。京都は、794年の平安遷都から、1869年の東京遷都まで1000年以上にわたって日本の首都であった。かつての皇居、京都御所が京都市中心部にあり、その広大な敷地は京都御苑と呼ばれ市民の憩いの場となっている。

### ○ カシオペアステークス（L）

カシオペア（Cassiopeia）は、北の空に見られる星座。北斗七星とともに北極星を探す指標となる星座として知られている。星座の形がM型やW型に見えることから「山形星」「錨星」とも呼ばれる。名は、ギリシャ神話に登場する古代エチオピア王妃のカシオペアに由来する。